夕刊
磐城新聞
七月二十八日發行
發行所 磐城新聞 合資會社
(日曜祭日翌日休刊)
東京振替一〇八•五五六五番

天氣豫報
小名濱測候所觀測
今晩も明日も南東の風晴夕立模様

赤羽松堂翁追悼句會 4
廿四日長橋町性源寺で

○魂迎へ病み居し世繼子癒えてけり　猪狩果秋
○ね一人子一人淋し魂迎　同人
○うからどち夕べにかけて魂迎ふ　同人
○魂迎へ月をいざなふ蓮の風　大和田水明
○魂迎へ更くる庵に鳩時計　同人
○月の暈たるも庵や魂迎　同人
○茄子の馬を曳きまゐらせん魂迎　中野秋明
○迎火を焚いてほろりと涙落つ　同人
○ありし日の師の君憶ひ魂迎ふ　同人
○魂迎ふ火に海荒れの風が來ぬ　深瀬みのり
○迎火はしほざいしげく燃わくづれ　同人
○魂迎ふ火が海霧に濕れて消え　同人
○北斗荘迎火焚いて翁を待つ　古川三因
○魂迎ふ夕べに星の流れけり　同人
○性源寺御靈迎へて集ひけり　同人
○俳聖を偲び御靈を迎へけり　秋山紅花
○燃えしぶる門火に想ひひそめ居る　同人
○だらからのむつみ焚き居る門火かな　同人
○魂待つや燭を灯して睨せんべい　本間應子
○迎火のほむら冷たし星明り　同人
○迎火の靜もりて濃きものの影　同人
○北斗荘の內の靜めや魂迎　伊藤具砂常
○魂むかふ身に庭冷のひそと來る　同人
○連れ立つて行く野の道や魂迎　同人
○師が面の想ひ出されて魂迎　大方竹羊
○魂を迎へて寺門重き闇を出づ　同人
○たま迎へ明るき家の豊かな　同人
○ちゝと啼く虫かなしげにたま迎　殿木麗月
○歸省せし孫の育ちやたま迎　同人
○むかへ火のつきなんとして人動く　同人
○迎火にそゞろおもかげ星はろか　土田華山
○迎火に北斗料の聲や星明り　同人
○むかひ火の草戸越わゆく黍畑　同人
○白張りの薄火ゆらぐやたまむかへ　鈴木北窓
○むかへ火に慕ひ寄り來し夜蟬かな　同人
○たまむかへ皆新らしき佛具なり　同人
○門火焚きぞめく子らを見つゝ淋し　國玉碧笑
○むかへ火の火明りが見ゆ路地の奥　同人
○おくつきの月見草踏み魂むかへ　同人
○たまむかへともしび早き北斗荘　赤井嶽男
○切り下げの人に逢ひけりたまむかへ　同人
○たまむかへ途に追悼句を練れり　同人
○たまむかへ人本堂に居り墓に居り　吉田茂堂
○たまむかへ畫師の提灯ともしけり　同人
○面影を玄關に見んたまむかへ　同人
○珠數の音のすみて精靈むかへけり　金子石城
○語りつきぬ今宵となりぬたまむかへ　同人
○子も孫もむかへ火守りて暮れにけり　同人

7月29日
△平重盛歿(治承三)△ムッソリーニ生(一八八三)△和蘭畫家ゴッホ歿(一八九〇)△二•二六外廓運動者に判決言渡(昭和一一)

その日

○
月の夜の青色の花搖ぐごと人びとの顔浮ける停車場　牧水

宿熱海　球雲　小野務平
角沸靈泉夙祓倫
養痾歳々幾千人
水明山紫吟情好
一力樓頭滌俗塵

積木のお家
宮本隆美

廣いお庭の　木の蔭に
積木のお家を　建てました
さつさ、そろつて　引越しよ
みんなでお荷物　運びませう

赤いお屋根に　青い門
積木のお家は　綺麗だな
さつさ、どなたと　住みましよか
みんなのお家に　いたしませう

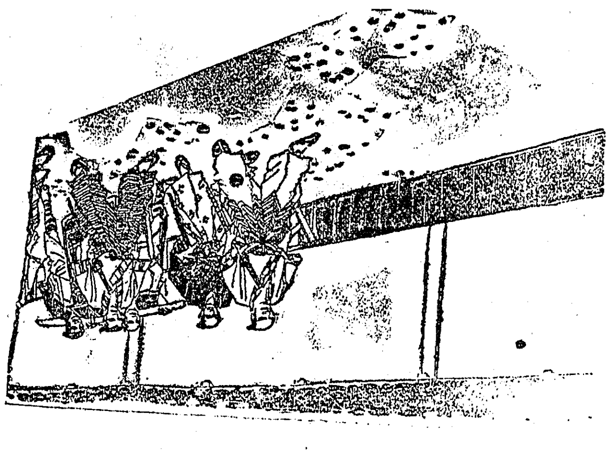
とてもお座敷　小ちやくて
積木のお家は　可愛いな
さつさ、トンボも[illegible]できな
みんな仲よく　遊びませう

からゝ晴れてる　青い空
どこかでサイレン　鳴つてます
さつさ、樂しいお晝です
みんなでご飯に　いたしませう

講談 隱密小天狗(おんみつこてんぐ) (84)
中川雨之氏作
近藤鐵氏畫

駕籠の主

するど。
「戸田氏々々、御在宅でござるか」
と、大きな聲で、わめき込んだ者がある。
その聲が、聞き覺えのある丸橋忠彌の聲のやうであつたから、俊作は、
「在宅ですが」
と云ひながら急いで玄關へ出て見た。
すると、先頭が丸橋忠彌、そのあとには金井半兵衛、そのほか二三浪士、それに中間風の者や籠舁ども混つて十人餘り、手に手に角樽や、魚籠なぞを持つて、冠木門の外にはもう駕籠が下りてた。
「はゝあ、駕籠の中は、正雪かな」
と、咄嗟のうちに俊作はさう考へたのである。
「正雪が突然訪ね來たのだ、それに違ひない」
と、思つた。
正雪が、突然來訪したものだとすれば、酒や肴は、その手土産で例の不思議もない。そし:若し、正雪が來訪したものなれば、[illegible]來訪の目的は[illegible]る。それが只だ單に、通りいつぺんの訪問でないことは分り切つてゐる。つまり義理づくめにして否應なしに自分の味方に引入れようとする魂膽に違ひない。惣五郎に加勢して、目明し龍吉を殺した効驗が、そろそろ現はれて來たわい。と、俊作は戚ぐつたのである。
だから、油斷なく、心にぴんと錠を下したが。偖て座敷へ通つて忠彌の口上を聞くと、
「今朝はわれわれ、正雪先生から使者の役目を承はつて參上したので、先生の仰せには、此間は折角お目にかゝりながら、生憎途中のことで、ゆるゆる御意を得る遑も無かつたのは、如何にも殘念の至り、ついては、これを御緣に、今後とも幾久しく御親交を願ひたいと思ふが、それに就き、ほんのお近づきの印として、聊か進物を持參致した」
といふのである。
その口上では、正雪自身の來訪でないといふことは分るが、然らば門のあの駕籠は空駕籠か、それとも誰が乘つてゐるのか、俊作は的にはづれるとともに、ますます分らなくなつて來た。
すると忠彌は、いつにもなく鹿爪らしい態度で、口上を述べてしまつて、傍らの半兵衛へ、チラと眼の合圖をした。
すると、今度は半兵衛がズイと立上つて玄關へ引返して、そこでポンポン何か命じると、仲間の一人が、
「へい」
といつて、駕籠脇へ行つて、扉を開いた。
かごの中から現はれたのは、意外にも美しい女、紛れもないそれは津の國屋の小夜美であつた。
半兵衛が玄關で手招きをすると小夜美は、小さい女持の扇を半開きにして、それを口に當てゝニッコリ笑つて、やがて、角樽や魚かごの並んでゐる玄關を通つて、半兵衛の後から、座敷に入つて來る。
「あッ」
と驚いたのはしゆんさくであつた。驚く遑もなく半兵衛が、
「戸田氏、正雪先生からの御進物でござる、どうか、御受納下され」
と、浴せかけられ、その上半兵衛が、まるで惡戯ッ兒かなんぞのやうに、
「それッ」
といつて突然小夜美の背を強く突いた。



敬神崇祖皇國精神
祭壇賑はす
うら盆提灯
戒名入提灯……岐阜提灯
スガノヤ提灯店
平市四丁目電話九五番

廣大院の新盆に就きましては誠に不躾けではありますが時節柄提灯其の他贈與の儀御辭退申上度何卒御了承願ひます
七月
平市 鈴本光四郎

診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、(齒科架工科)
齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
平市田町(松月堂向と)
中野齒科醫院(電話五〇九番)
院長 日本齒科醫學士 中野應次
日大齒科醫學士 塩谷伍郎
補綴部主任 佐藤重義

恐るべき中風、腦溢血を速治せしむる
アイヨー錠
血壓を下げ、血管若返り、中風を全治し、早老及老衰を豫防す。
中風の原因は血管の硬化にあり血管硬化すれば血壓高まり精神的並に肉体的に退行現象を生じ所謂老年病を誘發し或は中風腦溢血を突發す。アイヨー錠の應用は血管に若返り現象を與へ老衰の進行を緩徐ならしめ初老及中老期に隨伴する總ての不快症を除去し中風を豫防す。
動脈硬化症、高血壓症、初老期に於ける体力及精力減退、中風、腦溢血の豫防に常用すべき貴重藥
百四十四錠(八日分)貳圓　四百八十六錠(廿七日分)六圓
千八百錠(百日分)貳拾圓
專賣店 山野邊藥局 平市五丁目(電呼六六八)

新盆の戒名入提灯
例年の通り御安く御注文に應じます
弊店の提灯は……體裁が良くて値段の最も安い事は自分で一切の製造仕上げをする事と場所が不便の爲で有ります。
平市揆槌小路
金子提灯店

おでん
一平(イッペイ)
電話二六三番

酒とマヅイ
おでんの常ちやん
平市田町花ノ田
電話三三番

皮膚科 泌尿器科 性病科 專門
診療時間 午前八時ヨリ午後九時マデ
平市田町
江尻醫院 電話六九一
醫學博士 江尻伊三郎
入院隨意

眼鏡
メガネは正確にして廉價
最新式各國製レンズ
富豊に取揃へて御座います
(亂視用眼鏡即時調製)
◎小店員募集 十四、五才ノ者
根本時計店
平市二丁目 電話七六

國民精神總動員……
日本國民•必見の書……
內閣情報部發行
寫眞週報
(1部10セン)
…お取次致して居ります…
(平2) 西村藥局 (電3)

產婦人料專門
平市南町五二
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番
(病室完備、入院隨時)

晴雨兼用傘と洋傘
婦人子供……淸涼衣
店內豊富陳列
ツルヤ
電一四〇

第五十五期 決算公告
昭和拾參年六月參拾日現在
貸借對照表

資產(借方)	金額
現金預ケ金勘定	二七四、七六二、七九〇
現金	四四、七六二、七九〇
預ケ金	二三〇、〇〇〇、〇〇〇
有價證券勘定	二三三、八七〇、〇〇〇
國債	一〇一、六六〇、〇〇〇
內手許在高	八三、八九四、〇〇〇
社債	二〇、〇〇〇、〇〇〇
株式	九一、二一〇、〇〇〇
割引手形勘定	一三、四〇九、五一〇
商業手形	一二、五七一、五一〇
荷付爲替手形	一、八三八、〇〇〇
貸付金勘定	六七九、九〇六、八一〇
手形貸付	四五三、四六三、五二〇
證書貸付	一三三、二六九、八二〇
當座貸越	一〇四、一七三、四六〇
貸付有價證券	五、〇〇〇、〇〇〇
他店貸	一六、七七三、八九〇
動產•不動產勘定	四五、八七五、四九〇
營業用土地建物什器	一五、六六五、一八〇
所有動產不動產	三〇、二一〇、三一〇
假拂金	二、六三五、〇二〇
株主勘定	三五二、五〇〇、〇〇〇
拂込未濟資本金	三五二、五〇〇、〇〇〇
合計	一、六〇三、七五三、五一〇

負債(貸方)	金額
預金勘定	一〇一七、四六六、二五〇
當座預金	一九六、〇四六、三九〇
特別當座預金	二七四、八九一、〇七〇
通知預金	二、三九七、四六〇
定期預金	五四四、一三一、三三〇
他店借	一〇、三九五、三三〇
雜勘定	二一、七九一、一二〇
未拂配當金	六二、四〇〇
未拂利息其他	八、〇七六、八六〇
預金利子諸稅	五一七、四三〇
未經過割引料其他	一九六、九八〇
行員身元保證金	二、八六五、四六〇
株主勘定	五六四、一七二、八二〇
資本金	五〇〇、〇〇〇、〇〇〇
法定準備金	四三、八〇〇、〇〇〇
建築積立金	二、〇〇〇、〇〇〇
退職給與基金	四、四五〇、〇〇〇
當期利益金	一四、九二二、八二〇
內前期繰越金	九、六六二、一一〇
退職給與基金戾入	七〇〇、〇〇〇
合計	一、六〇三、七五三、五一〇

一金壹萬四千九百貳拾貳圓八拾貳錢　當期利益金
一金參千百圓也　諸積立金
一金壹千七百七拾圓也(年貳分四厘の割)　株主配當金
一金一萬五拾貳圓八拾貳錢　後期繰越金

昭和拾參年七月貳拾五日
福島縣植田町
株式會社 磐東銀行
取締役頭取 江尻博孝
專務取締役 金成欽次
取締役 金成通
同 兒玉萬平
取締役支配人 金成金三
監査役 古川傳一
同 藤田淺之助
同 久保木榮作

追て代表取締役選任の件及監査役貳名任期滿了に付改選の件は代表取締役に頭取江尻博孝、監査役に久保木榮作(再選)下山田嘉一郎(新任)當選仕候

專門的に燃料價格檢討

安く普遍的の供給を眼目とし度い　阿部委員は語る

縣地方物價委員會は昨二十七日午後一時から縣農會樓上に於て開催、懸案諸項に就、論議さ、た結果專門委員會が設けられ石炭と交通警關係中石炭に就ては地方からは平市石炭商業組合長阿部政右衛門氏が燃料物價專門委員に擧げられ、土地柄今後の動向が注視さるゝに至つた。右に就き阿部委員は語る

石炭の販賣統制に就ては去る十年中三井、三菱、住友、貝島、明治礦業、常磐三大炭礦等全量の九割を占むる會社によつて昭和石炭株式會社が創設されて以來自主的に價格の統制が行はれて來たので今後法律によつて劃一されると前記以外の所謂アウトサイダー迄加はり一段の統制を期することが出來るわけである、先般中央の物價統制委員會で決定した答申に就て見ると何れも家庭用方面に就ても、縣の委員會でも同樣標準の下に檢討する事にならうが其れには極力中間搾取を防ぎ如何にして安價且つ公平に供給するかを研究する必算である、長期戰下に於ける大衆の利益を根本とする以上我々營業者の上にどう響くかは考へて居ない云々

に屆け出たものでは區長主催による一丁目は朝の街路使用、長橋町は青年團の主催で尼子稻荷神社境内、又片倉磐械製絲工場では從業員のため同工場廣場で夫々勇壯なところを見せることになつて居る

家賃地代据置き？

平市の店子喜ぶ

地方都市に似合はぬ特例的の高値を示してゐる關係から平市の借地借家主から可なりの關心を以て〇へられてゐた地代及び家賃に就ては何等觸れなかつたが之よりも先き大衆に最も多くの利害を持つ之の方面の騰貴を抑制する爲め專門委員會を設けて調査を急いでゐた中央物價調査委員會では二十六日の委員會で商工省に對する答申事項として

◇家賃は現在以上絶對に値上げせぬこと（移轉の行はれた場合も含む）◇新規の貸家は附近の同樣家屋に準ず可きこと◇破損個所は迅速に修理すべきこと◇地代は現代以上絶對に値上せぬこと◇新規の賃地は附近の地代に準ずること

に決定したので地方も同樣の方針に出る事殆ど確實とみるべく、從つて從來小破修繕或は疊替へ等に就て殆ど顧る處無く且つ昨今に於ける物價騰貴の波に乘つて家賃時代の釣り上げを畫して居たかも知れぬ一部に對し極めて强力な統制となるので、往々之等の搾取に惱まされた店子借地人には若干の利益が齎らさるゝ筈で關係者一同内心密かに喜んでゐる樣である

時局に鼓載され揚るラヂオ體操熱

今年は三小學校使用

銃後の意氣をここにあつめて小學校でのラヂオ体操はなつ休みの來月一日から例年ならば第一、第三兩校で行ふ筈であつたが今年は時局に鑑み第二校庭も使用することゝなつた、開始は朝の六時、一般市民の參加を認へである　尚市内各區に銃後の体位向上を目的にラヂオ体操熱が盛んで既に市役所

舊盆をひかへて　灰色の世界に救護の手

助成會で該當者調べ

愈よ盆月に入つたので平社會事業助成會では例によつて『灰色の世界』に救護の手をさし延べることゝなり市内各區長に依賴して要救護者を調べ上げ三十日市會議事堂に方面委員會を開いて救護程度等の方針を決定すべく準備を進めてゐる

する大体例年通り見舞金を送る方針であり該當者は舊平町時代には約百戸近くあつたが平窪の含まれた今日百二、三十戸には上るものと見られてゐる、尚見舞金は前回まで一人五十錢の割であつた

偽電報で時局詐欺

磐崎村上湯長谷炭礦鑛婦澁生ハルヨ（三二）は今年四月伊達郡立子山村發電所に働く内縁の夫營野忠信と共謀、湯本局から夫忠信宛入營の偽電を發して夫の同僚達を欺き雇主の橋川末郎さん外數名からマンマと餞別詐欺をやらかしたこと

發覺、二十八日平檢事局の取調べを受けた

一錢貯金實施

江名部落の貯蓄熱

江名町大字江名部落では二十六日區會を開き戰時下生活改善、報國貯金を決議した

報國貯金は大字を七組に分け來月一日から一日一錢以上を貯蓄せんとするもの

○○○○第三訓導出張　平第三小學校訓導石田仲六郎氏は來月十一日から月末迄北海道樺太地方の地理研究へ、同校蛭田好一氏は同樣一日から十一日迄東京、長野地方の同上、同校蛭田ナツ氏はこれ亦一日から十二日迄東京の洋裁講習會へ夫々なつ休を利用出張

父の死に公私を辨ふ

非常時の緊張を持した　在鄕軍人松浦磐女教諭

磐女教諭松浦誠氏は過般第一期未入營兵補充教育が開始さるゝや其の都度出席して訓練を受けて來た矢先き接て病床から『看病など私事に拘はり奉公を廢するな』と同教諭を激勵しつゝあつた嚴父昌翁（七四）が遂に永眠したに拘らず、葬儀一切を親戚に委ね、翌二十四日から二日に亘る點呼敎習にも加はり、葬儀を點呼に差支なき二十六日に延期執り行つたなど終始取り亂さずに非常時下の軍人たる態度を失はなかつた點他の模範たるものであるので藤田分會長から執行官に賞詞方を内申した

大久保君市葬

來月一日第三で

平市では昨二十七日聲なき凱旋をした前線の華、市内研町出身上等兵大久保善八郎氏の市葬を來月一日午後一時から第三小學校に執行らは

夏の夜に躍る

街の不良青年狩り　平署の捜査鋭し

過ぐる交換手斷り事件以來なつの夜に躍る不良青少年狩りに手を染めた平署では既報エロ漢四名を槍玉に揚げ引續き捜査の手を進めて居るがなかには中等學生等も加はつてゐる、數日前から市内一丁目、古鍛治町、紺屋町から某々四青年を檢擧したがこれらは何れも物騷な匕首を一挺乃至數挺を懷中して市内を徘徊してゐた『街の不良』である

今は名句も追憶の種

『再た戰はん日の近き』期待空し　故矢吹長貴曹長の風懷

戰線にいみじ思藻

昨報安慶戰線で果敢な玉碎を遂げた市内平窪出身森田部隊矢吹長貴曹長は農業兼醬油釀造を營む長一さん（五三）まささん（五〇）夫婦の長男で同君は磐中出身妻さい子さん（三七）との間に長紀君（三）があり出征前まで家業を切廻して居た大熊社、文學に趣味を有し出征前は時折本紙歌壇を賑はしてゐた、次は親友六和田水明、關場和一兩氏に宛てた最近の『陣中作句通信』で亡き勇士の風懷が偲ばれる

去る日揚子江を溯江〇〇に上陸、折から窮く支那の雨季に毎日惱さ、或る日は僅か三里の行軍に日が暮れたる有樣、目下〇〇城に在り、近々中〇湖を横ぎり〇〇に上陸の筈

揚子江を溯る日はむし暑く踊れたり

○炎天何ぞ、又戰はむ日の近き

揚子江兩岸は芦の青さ眼に沁み入るやう

○芦の茂みどこまでつゞく揚子江

江上島あり

○芦ばかり風に光るや無名島

城の井戸水良しときき

○水良しと聞き巣縣の夏うれし

戰死者の碑に額づきて

○ここにまた戰死の地あり草茂る

〇〇は〇湖と西北に控へ風光明媚の地と云ふ可く戰禍に見舞はれずんば正に『詩の町』と讃へたきところ、今や廢都にひとしく臭鼻をつき蠅と蚊の多きをうらみ且つ憎む

○みなもなく酒くむ勇士や花薫る

鳳陽城外

○クリークに日和つゝくや水温む

○芽柳や古都鳳陽の朝未き

鳳外は既に初夏の候

○地の果てに走る道路や風光る

因に同君の兄弟は一人は養子に行き、一人は稼ぎ仙台遞信局に勤務して居た三男一德君（二四）は今春四月死亡し家には磐城高女四年生のみち子さん（一九）が居るのみである

灼裂！敵彈を撮影

名譽のカメラマン　會田氏講演會盛況

敵前に傷いた名譽のカメラマン—報知新聞特派員會田利彦氏（本部永戸村出身）の從軍報告講演會は平市聯合青年團主催で昨夜七時から平署會議室に開いた、…共に派遣され上海からウースンへ更に各部隊に從つて時には直前四十米で炸裂した敵彈をカメラに納めるなどの冒險の末遂に傷いて後送されるまでの戰局の推移を詳細報告、九時聽衆に多大の感銘を與へて講演は終つた、次で齋沼市長代理酒井主事並に本田平署長の挨拶を兼ねた一場の講演あり戰歿勇士に一分間の默禱を捧げて萬歲三唱有意義な會を閉ぢた

錢湯代を献金

江名町南町料理業山口家方女將志賀カツさんは昨年九月以來湯錢節約によつて國防獻金すべく風呂は自家用にして雇員は一日二錢、家

在鄕軍人表彰さる

鈴木友光、愛澤正是、和田國雄各上等兵外一名は今回平第一小學校に於て執行された簡閲點呼に於て、銃後運動に熱心にして模範會員たるの廉により執行官から表彰された

平女子同窓會總集會

平女子同窓會の十三年度總集會は來月六日（土）午後一時から第二小學校講堂に開く、會費十錢當日持參、出席は三日迄同校宛申込まれたいと

同窓會宛貯蓄遞り次第獻金の手續きをとつて附近民からその赤誠を賞讃されてゐる

離職者相談部

平紹介所の新施設

立澤初代所長をむかへ國營として充實した陣容を以て銃後求人、求職者の斡旋に當つてゐる平職業紹介所では昨今の物資動員により轉廢或は離職に遭つて困惑してゐるのゝ漸次增加の傾向にあるに鑑みこんど『離職者就職相談部』を設けて所長がこれに當り一日も早く就職せしめた上銃後陣營の强化をはかることゝなつた

廢められぬ惡道

十七年前の内妻殺し　また地方を荒す

去る大正十一年十一月十日夜赤井村で内縁の妻小野はる（一九）をダイナマイトで爆殺し翌十二年六月恐るべき殺人の罪名により平支部で無期懲役の判決を受けた栃木縣那須郡那須村字湯本生れ住所不定無職殺人强盜前科三犯室井熊三郎（四三）は其の後屢々減刑の恩典に浴し昨年四月十六日宮城刑務所を出獄したといふ堂々？たる經歷を持へ强か者であるが

去る一月十日夜内郷村炭礦五十嵐德藏方雨戸を破壞して侵入、現金八十圓在中の手提金庫を窃取を手はじめに四月中旬勿來町某劇場が興行中の木戸賣上金二百二十圓を窃取した外

千葉、茨城二縣に亘り惡事を重ね更に一と稼ぎしやうと去る六日常磐線友部驛前を徘徊中其筋に捕はれ取調べの結果罪狀判明昨二十七日送檢

國府一等兵戰死

三阪村出身兩角部隊一等兵國府鏈治君は前線の華と散つた旨二十八日原隊から發表された

見習工試驗

來月廿一日第一で

平職業紹介所では目下某製作所の見習工を募集してゐる

資格は十六才以上三十二才迄で詳細同所に問ひ合せの上申込まれたい

應募者に對しては來月二十一日午前九時から第一小學校講堂でこれが採用試驗を行ふ

婦人團體時局協議

平市では二十九日午後一時から市會議事堂に市内各種婦人代表を招き時局對策協議會を開く

戊辰戰歿者追悼會

平安會主催の戊辰戰歿者三田八彌以下四十七名（農兵を含む）に對する追悼會は例年通り來月六日の舊盆十一日を期し市内良善寺に於て執行すると

○○○○補充兵教育終了式　目下補充兵教育を實施してゐる平市の未入營補充兵教育の終了式は來月一日第一小學校で擧行の豫定

○○○銀紙献金　市内五丁目山野邊東次郎氏は銀紙三百八十八匁を國防費へ

○○訂正　一昨紙所報賠傳記事中市毛吉太郎方とあるは場所違ひに付訂正

○○落磐　赤井村礪島炭礦坑夫相馬正二（三二）は二十七日夕刻入坑作業中落磐死

お披露目

由形家は過般來暫く小浪がシングル戰で熱盃を飛ばして來たが今回『いろ子』十八歲を增イン、茲に全く營容を整へ大にカツヤクを期することゝなつた

二十九日（小名濱測候所發表）

滿潮　午前五時〇五　午後六時三五　干潮　午前一一時一〇

舊七月三日　金曜　壬戌　先負　平　牛宿　七月二十九日

▲一白　時運のくも足早く追付かれぬ氣味ありあせるは凶▲二黒　飮食さへつゝしめば餘事は何れも無事たるべし▲三碧　前進の氣運に向ひ來る日一致事に當るべし▲四綠　願ふこと大に過ぐれば一物も手に止まらず▲五黄　迷はず惑はず常業に滿足すれば吉日となる▲六白　障がいを除きつゝ進みてうまざれば末は大吉▲七赤　誠意と根氣とを以てすれば萬事通達すべし▲八白　ちりも積れば山となる急功を求むること勿れ▲九紫　人のはなしに乘る勿れ文書の授受も注意を要す

散華院（故半谷壽長）新盆に相當り候處誠に勝手がましく候へ共時局柄提灯其の他供物等一切御辭退申上度何卒不惡御諒承願上候

昭和十三年七月

平市四丁目　マルトモ食堂　半谷すて

亡妻温良院新盆に相當候處提灯其の他佛前への御供物等一切御贈與の儀は時局柄拜辭可仕候間不惡御諒承被下度願上候

平市中町　中野惠次

眞覺院新盆に就きましては甚だ勝手ながら時節柄提灯其の他典與の儀御辭退申上度何卒御了承願ます

平市南町　芹澤キヌ

空冷式 健康陶枕

笑はれる程よく眠れる。疲勞倦怠を快復し精力記憶力を增進する實用新案の健康陶枕

効能

腦を酷使する人、腦神經衰弱の人は藥よりも この空冷式健康陶枕を……

高血壓症　のぼせ症

腦溢血症　耳鳴、頭痛症の方に

不眠症　特に卓効あり

特約店 平市五丁目 入江陶器店 電話五八二番

看護婦至急募集（委細面談）

高柳醫院

外科、内臟外科 エツキス光線科 新設……産婦人科

院長 安齋 徹　醫學士 黑澤

入院隨意 平市田町 安齋醫院 電話四七五番

内臟外科一般 外科 花柳病（入院隨意）

平市六丁目（橋際） 木村外科醫院 電話三〇九

平市南町 大和田醫院 電話一七〇番